



千葉大学医学部同窓会報 第91号 題字 鈴木 五郎

編集兼発行者

千葉大学医学部

るのほな同窓会報編集部

〒280 千葉市亥鼻1-8-1

千葉大学医学部内

るのほな同窓会

電話千葉(0472) 22-7171内線2038

所感

るのほな同窓会長

小林 金 市(昭8卒)

我がるのほな同窓会も役員を初めとして、大多数の会員の時局に対する一層深い認識によって、各支部の結束も強固になり、それと共に全会員相互の連繫も次第にとれ、一応体制を整えるに至っている。誠に同慶に堪えないところである。

我が医師を取り巻く環境は、依然として改善されるところか、逆って益々厳しさを加えている。先づ医師過剰の問題も、当局は七十年以降入学生定員の10%の削減を図っているのであるが、この程度では、この問題は解決されない。

老人保健法の一部改正は、誠に悪法である。自ら招いた財政窮乏を、従来の国の二千九百億円の補助金をカットして七十歳以上の老人の犠牲に於て、些かでもこれを償なおうとしているのである。本末転倒も甚だしい。渡辺元蔵相は公然と「老人は病気になるたら早く死んでくれなくては困る」と言っている。社会保障も福祉国家もあつたものではない。

尚、拠出金の按分率も、現在の四四・七%から100%に高上げて、政管と組合健保とに據出せしめるのであるが、これもその被保険者一人当たり五万余円の負担増となる。これは即ち事実上の増税である。この保険料は所得税と異なり、基礎控除も累進性もなく、月給に直ちに比例するために、低所得者に厳しい負担となる。将来的には、健保制度の基盤を弱める可能性も秘めている。然も、先約の保険制度の一本化を忘れてはならない。

老人保健施設も、その医療法上の位置づけも曖昧であり、尚、医療費の支払いも出来高払いを排し、請負い方式に変更しようとしている。

これ等は何れも、保険医療の根幹に触れる大問題である。

医療法の一部改正、即ち、医療

中村先生は、昨年10月29日付けにて栄ある紺綬褒章を受けられた。紺綬褒章は、公益のために多額の私財を寄付された方に国家から贈られる榮譽あるしるしである。

中村先生はかつて第二外科の助教授をつとめられ、いわゆる中山外科時代を支えられた有力なお一人であり、その後静岡岡市に開業されて大いに活躍されておられることは衆知の通りである。先生の博学への御寄付のお蔭で中村奨学金制度が出来、去る昭和59年5月に同基金による助成金交付に関する細則が制定され、既に年々2名の

中堅医師、研究者に奨学金が贈られている。何回かにわたる先生の御好意の集積は基金二千万円に達し、その利子により研究助成が行われていることは特筆に値する。

本年3月定年により教壇を去られた四教授の退官記念行事が左記の通り行われた。

三橋公平教授(解剖学第二講座) 最終講義「北海道の古人骨」 日時・昭和62年3月13日(金)午後一時三十分より。場所・札幌医大講堂。記念祝賀会は、3月14日(土)午後三時より札幌プリンスホテルで開催された。



教授をつとめられ、いわゆる中山外科時代を支えられた有力なお一人であり、その後静岡岡市に開業されて大いに活躍されておられることは衆知の通りである。先生の博学への御寄付のお蔭で中村奨学金制度が出来、去る昭和59年5月に同基金による助成金交付に関する細則が制定され、既に年々2名の

中堅医師、研究者に奨学金が贈られている。何回かにわたる先生の御好意の集積は基金二千万円に達し、その利子により研究助成が行われていることは特筆に値する。

本年3月定年により教壇を去られた四教授の退官記念行事が左記の通り行われた。

白壁彦夫教授(内科学講座) 記念講演会「消化管X線診断研究の回顧と展望」 日時・昭和62年3月25日(水)午後四時より。場所・順天堂大学有山記念講堂。引き続き記念パーティー開催。

当局もこの10%では二十一世紀には、已に10%の医師過剰になると言っている。イタリア、オランダに見られる如く医師の失業時代の到来は必至である。これには、自治医大や、医科歯科大学に見られる如く、今から同窓会が大いに力を奮つて、この対策に当らなければならないと信ずるものである。

低医療費政策は更にその度合を強めている。九年間も診療報酬が実質値上げを見ない。この間、物価は二十六%、国家公務員の給与も五・九%上昇している。これで

稲垣義明附属病院長の任期満了に伴う後任選出は、去る2月23日午前に行われた助手以上による予備選挙、同日午後の教授会での本選挙の結果、本学産科婦人科学講

座の高見澤裕吉教授が過半数を得て次期附属病院長に選ばれ、四月一日付で就任されたことになった。次号で高見澤新病院長に抱負をお伺いする予定である。

長井和行学長(昭24卒)の任期満了に伴う学長選挙が、昭和61年12月8日行われ本学精神医学講座佐藤孝三教授(昭21卒)が学長候補に当選され、本年四月一日付発令で第二学長に就任されることになった。

高見澤裕吉教授(昭27卒)
附属病院長に選出される

稲垣義明附属病院長の任期満了に伴う後任選出は、去る2月23日午前に行われた助手以上による予備選挙、同日午後の教授会での本選挙の結果、本学産科婦人科学講

座の高見澤裕吉教授が過半数を得て次期附属病院長に選ばれ、四月一日付で就任されたことになった。次号で高見澤新病院長に抱負をお伺いする予定である。

長井和行学長(昭24卒)の任期満了に伴う学長選挙が、昭和61年12月8日行われ本学精神医学講座佐藤孝三教授(昭21卒)が学長候補に当選され、本年四月一日付発令で第二学長に就任されることになった。

長井和行学長(昭24卒)の任期満了に伴う学長選挙が、昭和61年12月8日行われ本学精神医学講座佐藤孝三教授(昭21卒)が学長候補に当選され、本年四月一日付発令で第二学長に就任されることになった。

なお、昭和56年に千葉県立衛生短大が発足して以来、二期六年間にわたって学長を務められ、同大の発展に尽くされた長井学長は、四月からは兼任中の栄養学科教授として同大で公衆衛生学を講ぜられる。

佐藤 孝三 教授(昭21卒)
千葉県立衛生短期大学長就任

稲垣義明附属病院長の任期満了に伴う後任選出は、去る2月23日午前に行われた助手以上による予備選挙、同日午後の教授会での本選挙の結果、本学産科婦人科学講

座の高見澤裕吉教授が過半数を得て次期附属病院長に選ばれ、四月一日付で就任されたことになった。次号で高見澤新病院長に抱負をお伺いする予定である。

長井和行学長(昭24卒)の任期満了に伴う学長選挙が、昭和61年12月8日行われ本学精神医学講座佐藤孝三教授(昭21卒)が学長候補に当選され、本年四月一日付発令で第二学長に就任されることになった。

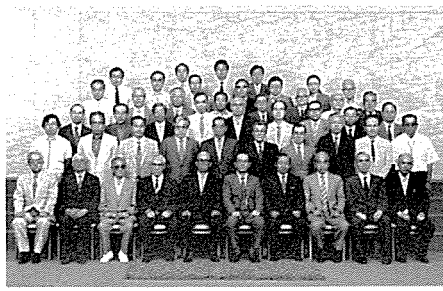
長井和行学長(昭24卒)の任期満了に伴う学長選挙が、昭和61年12月8日行われ本学精神医学講座佐藤孝三教授(昭21卒)が学長候補に当選され、本年四月一日付発令で第二学長に就任されることになった。

なお、昭和56年に千葉県立衛生短大が発足して以来、二期六年間にわたって学長を務められ、同大の発展に尽くされた長井学長は、四月からは兼任中の栄養学科教授として同大で公衆衛生学を講ぜられる。

各地のものはな会だより

静岡のものはな会

静岡県のはな会は会員総数百九十二名、内七十才以上の会費免除会員二十四名を擁し、県内各地区毎にものはな会が開かれており、総会は二年に一回開催されている。今年は静岡市が当番で、昭和61年8月31日に村尾正会長（昭14卒）のもと、静岡駅前ターミナルホテルで41名が出席して開かれた。



当日、静岡県医師会後援で講演会を開催し、吉田 亮教授の「日本に於ける医学教育の将来について」また、稲垣義明教授の「高血圧症とその対策について」と題する、誠に有意義なスピーチを賜った。また、本部から小林金市会長と静岡県出身の三輪清三名誉教授と静岡県出身の三輪清三名誉教授の御来臨を仰ぎ、講演会是一般医師会員も来聴され、裨益するところ

九州のものはな会

（幹事 中村 武（昭20卒）記）

昭和61年4月19日、佐賀県唐津市で第五回千葉大学医学部のはな同窓会九州支部（通称九州のものはな会）総会が開催された。今回は、唐津市の森永宗雄先生（昭22卒）のお骨折りで万事遺漏なく殊に総会後の懇親会は、先生のご指導で料亭「水野」が腕を振る、料理の素晴らしかったことは、全員賞賛の的であった。（グルメ）

で有名な出水の来仙 隆先生（昭18卒）のお褒めをいただいたのだから間違いない。特筆すべきは名誉教授三輪清三先生のご臨席を賜り、色々と面白いお話や人間の生き方について有益なお言葉をいただいた。先生は相変わらずの温顔で話され、一同感激した次第である。お言葉のしはしから、先生の永年にわたるご体験とそのお人柄が宝石の光のごとくキラキラと輝いており、さすがと感銘をうけた。

総会の翌日は名護屋城址等の唐津市に観光し、一日を過ごした。目の前で直接見た唐津ひき山の圧倒的な美しき見事であった。また、中里太郎衛門家での一時は私達に

別の世界をかいまみる機会を与えて頂き改めて森永先生のお心づかいに感謝した次第である。

今回は17名余の参加であったが、名簿の作製、会費徴収、事務連絡などについては、訪中直前で御多忙な谷川久一先生（昭32卒）と奥様の谷川章子先生（昭33卒）に大変な御苦労をおかけしてしまつた。来年は福岡市での開催予定である。一人でも多くの会員の参加を念じ再会を期して4月20日午後散会した。（九州支部長・古寺秀喜（昭22卒）記）



四金会について

このごろ「シキンカイ」って何の会ですか」と時々尋ねられる。なるほど、至近会、賜金会、資金会、試金会等いろいろに読める。四金会の名の始まりは昭和26年とされている。小林龍男名誉教授によれば、この年1月14日に同窓会館の落成

祝 昭和六十一年 叙勲・表彰

勲三等旭日中綬章	堀越 達郎先生（昭20東医歯大卒）
勲五等双光旭日章	守屋 弘先生（昭13卒）
勲五等瑞宝章	中村 卓二先生（昭10卒）
紺 綬 褒 賞	中村 武先生（昭20卒）
千葉県文化功労賞	香月 秀雄先生（昭16、3月卒）
千葉県国民健康保	石橋 文太先生（昭22卒）
千葉県国民健康保	飯島 剛先生（昭26卒）
千葉県国民健康保	柴田 耕三先生（昭24卒）
千葉県国民健康保	

式が行なわれ、その際「同窓会の発展を期し、その運営を円滑にするために、同窓会館において毎月第四金曜日に例会を開く事」が決議された。当初は時間も午後4時からと定められており、実際に毎月行なわれたので通知の必要もなく、現在の総会も含めて種々の企画や討議が行なわれていたという。まさに同窓会活動の原動力であったわけである。

しかし、年移り人変り、同窓会運営組織が確立されるに及んで、四金会は懇親を主体とするようになり、毎月行なわれる事もなくなつた。準備の都合もあって、学内および近隣の先輩の出欠を伺うが、現在は近任・昇任の教官、叙勲・受賞の方々のお祝いを兼ねて2・4・9・11月の年4回行なわれている。四金会は先輩達が学内の人々との交流を求めて集う会である

河合直次先生

十三回忌開催

河合直次先生（元千葉大学教授、第一外科学講座）が昭和50年3月10日逝去されたから、本年は早いもので十三回忌に当るので、去る3月1日虎ノ門・葵会館で河合家と第一外科同門有志の主催で法要

沢田勤也部長（昭28卒、千葉県がんセンター病院）

中国医科大学客員教授に

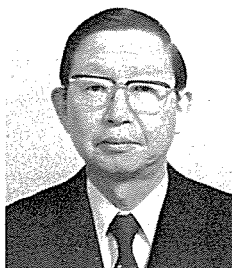


千葉県がんセンター病院、診療部長兼呼吸器科部長の沢田勤也先生（昭28卒）は、昭和61年9月23日付を以て、中国遼寧省瀋陽市にある中国医科大学客員教授の任命を受けられた。同大は、かつての満州医科大学として日本と歴史の結び付きの深い、伝統ある医科大学である。

が當まれた。当日は正午より白菊の献花にはじまり、先生の孫の敦之氏の挨拶（長男の清之氏も五年前に御逝去）があり、次いで田川重三郎氏（先生の親友、日産厚生会玉川病院名誉院長）、香月秀雄先生（放送大学長）らが思い出話や河合先生のお若い頃の話をされた後、友納武人代議士の献花があった。参加者は約80名におよび、二昔前の第一外科同門会のような和やかな雰囲気の中に往時を偲び、有意義な一時であった。（千葉大学教授、奥井勝二記）

社会保険船橋中央病院長に

大久保春男氏(昭28卒)就任



船橋中央病院の前院長武田清一氏の逝去にともない、去る61年9月7日付で副院長の大久保春男氏が昇任した。同氏は、旧制浦和高等学校を経て、昭和28年本学を卒業、第二病理学教室で故石橋豊彦教授、岡林篤名教授に師事し、

リウマチ性心内膜炎の組織病理学的研究で学位を取得し、その後第一内科で臨床研修を行い、国保長生病院でも研究を積み、昭和43年より船橋中央病院に転動現在に至っている。同氏は消化器癌の病理形態学の権威であり、多くの業績がある。これからは四百余床の大

二年前に女子医大は八十周年を迎えた。一九〇〇年に吉岡弥生先生により開設され、女医育成のための医学学校、医学専門学校を経て一九五〇年に医大へ昇格したわけであるがその経緯は詳しいものであつたが語り継がれている。吉岡博人理事長の巾広

た。目的とする処は講座制によるセクト主義を除き、患者のための医療を行い、同時に卒業後六年間の練士制度を設けて実力のある臨床専門医を養成することである。中山先生の理念を受けて四半世紀近くになるが年々実績を積み重ねて

東京女子医科大学だより

小幡

裕 (昭28卒)

各施設の講師以上を紹介する。() は卒年。消化器病センター外科中山

保長生(45)谷川達也(45)各講師。成人病センター所長渋谷実教授(27)。母子センター中林正雄助教授(43)。内分沁内科野村馨講師(48)。皮膚科上理子助教授(48)。麻酔科鈴木英弘教授(35)。臨床中央検査部熊田徹平講師(46)。尾久第二病院小児科田光範教授(35)梅津亮二(45)木口博之(46)各講師。同外科菊池友充講師(47)。なお心研内科に笠置友助手(42)他二名、同外科に原田順和助手(53)他九名が在籍している。

第二次世界大戦後、海軍共済病院が沼津市に移管され、昭和20年9月1日、市立病院としてスタートしました。昭和30年、三枚橋の現在地に移転、昭和35年に現病院が完成しました。

千葉大と沼津市立病院の関係は密接で、昭和21年5月、千葉大皮膚泌尿器科の佐藤邦雄教授が現職のまま第二代院長に就任され、昭和45年11月、防衛医大の鴻忠義教授(昭13卒)が第七代院長に、昭和57年6月より私が第九代院長、同年7月には新病院建設に関する顧問に北村武名教授(昭13卒)に就任して頂いております。更に二名の副院長は何れも昭和34年卒の松原保、永井順で千葉大関係者は常勤医35名中21名を占めています。

こだま

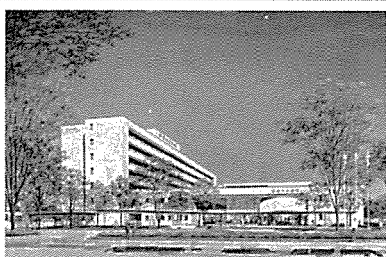
病院長 平岡 眞 (昭23卒)

沼津市立病院だより

千葉大関係者は次のように活躍しています。内科は永井順の下で消化器疾患を、林良明(昭42卒)は糖尿病教室をはじめ内分泌疾患を、佐々木健身(昭44卒)は静岡県に少ない心療内科を担当しています。外科は小沢弘信(昭40卒)の下で食道癌、肝切除等の大手術

現病院の病床数二五七床、診療科目は内科、外科、整形外科、小児科、産婦人科、眼科、耳鼻科、皮膚科、泌尿器科、麻酔科、歯科、放射線科の12科、入院患者一日平均約三三〇名、外来患者約七百名であります。

特設になる周産期センターの設立を準備し、泌尿器科は内藤仁(昭51卒)が経皮的尿路結石除去術を50例以上経験するなど地域医療の向上に貢献しています。しかし現病院の敷地は約三千七百㎡、駐車場37台と狭く、そのため新式の大規模医療機器を設置する



来夏オープンする新病院完成予想図

場所もない上、建物の老朽化が激しく近代的な病院としての役割を果たせなくなっています。そこで昭和63年3月、7月開院予定であります。新病院の規模は本館7階建、塔屋2階、RI検査部門と放射線治療部門は別棟に設置され、駐車場三五〇台が予定されています。また附属施設として敷地内に看護婦宿舎、看護学校、日赤血液センターが作られることになっています。診療科は脳外科、小児外科、形成外科が新設されて15科となり、病床数は五〇〇床。医師55名、職員総数四二五名の大世帯となり名実ともに県内東部地区の中核病院になります。今後とも千葉大関係者の一層のご指導ご援助をお願いします。



クラス会だより

第41回のはな四葉会 (昭20専卒) 総会報告

日時・昭和61年11月1〜3日
場所・第一日、松島泊。第二日、花巻温泉泊。

参加者・同級生17名 同夫人9名。
特別参加、元長崎大学教授安中正哉先生(昭5卒)の計27名。



るのはな四葉会は卒業(昭和20年)以来、41回目の総会を開催した。終戦の年を除いて一度の休会も流会もなかった事は、当会員の熱意と親睦と団結の力強さを物語るものである。

今年は仙台市内観光、松島見物で一泊、翌日三陸海岸を北上、釜石、遠野を経て花巻温泉で一泊、三日目は厳美溪、中尊寺、毛越寺というルートを通った。晩秋の奥州路……今年も當って見たことのないほど見事であった。

安中先生は所用のため三日目の朝お別れしたが、八十二才とはどうしても考えられない程のお元気さである。次回もぜひご参加頂きたいものである。

来年は南紀で開催する予定である。
(末永直光 記)

昭二七会クラス会

昭和61年度二七会例会は、11月1日、遙か西の京、山口県山口市湯田温泉松田屋ホテルで開催した。出席者は27名。夫人同伴、岡本小沢・塩田・渋谷・原・古川・本間・松浦・長崎の9組、単身は小川・勝呂・服部・広田・藤田・町沢・宮川・矢島・渡辺和夫の諸氏。旅の疲れを温泉で流したあと開会。夫人の多数の参加で会は華やき、打ち解けて、和やかな歓談に、時の過ぎるのを忘れた。

昭和61年度 るのはな27会



春秋会 (昭和31年卒、 開業医グループ)

秋の例会は十一月十五〜十六日と、豊田義男君の開業地の浜松へ出かけた。浜名湖畔の館山寺温泉で数寄屋造りの美しい水月楼に宿を取って貰い、懐石料理と芸妓の舞踊を楽しんでから、ビューホテルに席を移してカラオケは深更に及んだ。

翌日は浜名湖畔をワゴンカーで一一周。龍潭寺、本興寺、新居閑所、中田島砂丘などを案内していただいた。なかでも龍潭寺の小堀遠州作の庭園は満天星の赤とのコントラストがまさに見頃で、よい一期一会というもの。

あちこちに程良い秋を探索したストレス解消の旅であったが、設営し案内役をした豊田君はクタクタだ。有難うございました。
小野清四郎常任幹事の良き引率のもと、喜々として楽しんだメンバーは、面白いことに昨年の唐津旅行とほぼ同じで、大島一浩、桑原久、志村公男、関 光倫、滝沢明祐、辻 輝蔵の諸氏である。

同級生の旅行は気楽で、ますます味を占めた次第。
(上野恭一記)



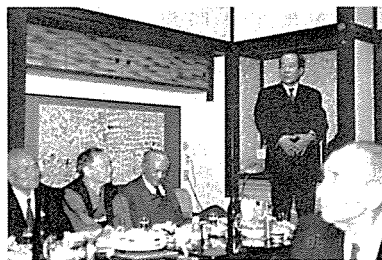
昭42年卒クラス会

昭和42年に卒業し、最後のインターン生となった我々のクラスは、4年毎のオリンピック開催年にあわせてクラス会を開いてきた。しかし、昭和61年2月に野村庸一君がクラス会メンバーとして最初の公立病院長(長生病院)に就任されたため、そのお祝いを兼ねて7月27日に千葉市内のほてい屋で臨時クラス会を開いた。参加者、28名。渡辺 昇君より、4月に亡くなられた金木良夫君の発症以来の病状説明や御遺族の近況、幹事より同君の遺児育英募金について報告があり、金木君の冥福を祈って皆で黙禱を捧げた。ついで宴にうつり、温厚の内にも筋金一本通った野村病院長の誕生に皆心から喜び、本学教授の谷口 克君の音頭による乾杯で彼の前途を祝った。昭和42年卒クラス会のメンバー 95

中島清之氏夫妻結婚七十年の集い

第一外科学講座教授 奥 井 勝 二 (昭28卒)

去る10月24日朝日新聞の京葉版に報道された記事を読まれた方が多いと思うが、千葉大学医学部正門前の中島ホテルの御主人中島清之氏93才、妻である(92才)御夫妻の結婚七十年を祝う会が中島ホテルで10月25日開催された。井出学長、本村医学部長、綿貫名譽教授、台湾大学葉曙教授をはじめ昭和10年前後の卒業生約50人ばかりが集まり、同夫妻の嬰鑠たる姿に驚きかつ祝い、これからも増々

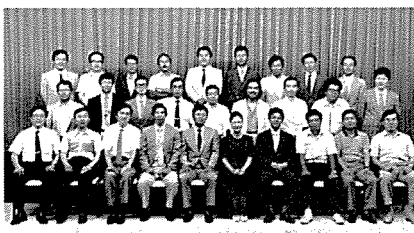


育ててくれたと感謝の気持ちで楽しい一時を過ごした。

助教教授13名)であり、大学教官の数が多のが特徴である。クラス会の時だけは日頃の気苦労も忘れて、仕事や家族のこと、学生時代の思い出など夜遅くまで語りあい、二年後の再会を約して散会した。
(守屋秀繁 記)

お詫び

第89号「昭八会クラス会だより」の志村 保先生のご住所を次の通り訂正致します。〒二二〇 横浜市西区霞ヶ丘75。また、左記住所を第90号の編集後記では、日向秀夫先生のご住所として紹介してしまい、御迷惑をおかけしました。訂正してお詫びいたします。



第60回 日本薬理学会総会 第64回 日本生理学会大会

千葉大学亥鼻、

西千葉キャンパスで開催

今年は第22回日本医学学会総会が開催され、東京およびその周辺都市で各種の分科会が開かれた。本学では附属脳機能研究施設・神経薬理研究部門および生理学第一、第二講座をそれぞれ当番教室として日本薬理学会総会および日本生理学会大会が開催された。

第60回日本薬理学会総会

本総会は3月29日から4月1日まで、萩原彌四郎教授(昭23卒)を学会長として、亥鼻キャンパスを中心に開催された。千葉で開かれるのは小林龍男教授以来実に33年ぶりであった。役員に、石川稔生教授(看護学部、昭33卒)、金久保好男教授(昭27東大薬卒、薬剤部)、久我哲郎教授(生物活性研、昭26卒)、村山 智教授(薬理学、昭26卒)が実行委員として、また長谷川修司助教授(昭36卒)が事務局長として参加した。特別講演は三名の外国招待者、二名の国内招待者によって行われたが、その内の一人は本学の谷口 克教授(昭42卒)であった。シンポジウムは10題(神経発達物質、胃粘膜、性差と薬効、発達薬理、ドーパミン、血圧の中枢調節、非アセチルコリン非アドレナリン神経反応、受容体情報伝達、心虚血、無麻酔動物)ならびに薬理学会・生理学学会合同シンポジウム二題(呼吸調節、シナプスの発生・再生)が行われた。また一般演題は口演、ポスターを合せ七百三十九題にのぼった。

参加者数は総計二千五百余名に

および、六十回といういわば還暦を向えた大会にふさわしいものであった。(脳研、神経薬理、助手、黒見 坦(昭42京大卒)記)

第64回日本生理学会大会

4月1日より3日まで本大会(日本医学学会総会第三分科会)が第一生理学教室本間三郎教授(昭21卒)および第二生理学教室、本田良行教授(昭25京大卒)を当番幹事として、千葉大学西千葉キャンパスにおいて開かれた。約千六百名の参加があり、一般演題八百十一題のうち口演六百二十一、ポスター百九十題が文・法経学部、教養部を中心に十会場で発表された。本年は脳研・萩原彌四郎教授主催の日本薬理学会総会がほぼ同時期に亥鼻キャンパスで開催されることから、両学会にとつて共通の研究領域にある課題について、初めての試みである合同シンポジウムが4月1日に両学会会場で企画された。生理学学会会場では、循環、Plesher course および神経ペプチドの生理と薬理が行われた。合同シンポジウムに限り両大会参加者は相互に自由に参加できるように配慮された。また、生と死を判定する基準が問いただされている

免疫学会における新しい潮流

竹 森 利 忠 (昭46卒)

本学免疫研究部門の谷口 克教授(昭42卒)を学会長とする第16回日本免疫学会学術集会は、昭和61年12月15・17日にわたって東京都市センター等で多数の先鋭的な演題と史上最高の参加者を集めて行われた。谷口会長の口演「第16回日本免疫学会」長とともに、本学第二内科富岡玖夫助教授(昭39卒)並びに放医研佐渡敏彦博士(昭30九大農卒)が副会長としてご尽力され、このトロイカ指導の下で計画・運営され、免疫細胞以外にも多くの研究者が参加し、成功裡に終了した。今回は新しい試みとして、細胞間情報伝達、T細胞リセ連遺伝子を単離し、その内の一つがリンパ球の増殖、分化因子の遺伝子の単離と構造を決定したこと、理研グループが癌遺伝子に対する抗遺伝子の導入により、癌細胞分化の誘導に成功したこと、谷口グループがメラノーマから癌抗原関連遺伝子を単離し、その内の一つ

解剖慰霊祭と白菊会

解剖学第一講座教授 嶋 田 裕 (昭35卒)

去る10月18日(土)午後、第59回千葉大学医学部解剖慰霊祭が、遺族、白菊会会員、大学教職員、医学部・看護学部・看護学校生ら多数の出席のもとに、医学部記念講堂で厳かに挙行された。主祭僧説経に続き、祭式委員長(木村医学部長、来賓千葉県知事)の挨拶があり、祭式委員長、遺族のほかに参列者全員が焼香して、医学部と研究のために昨年度献体された二八二体(系統解剖八三、病理解剖一九九)の御霊の冥福を祈った。

現在、生理学者もその問いに答えねばならない時期であるとのことから、生理学教育シンポジウム「生理学教育の中で『死』をどう捉えるか」が行われた。

昭和61年度 千葉大学公開講座 『高令化社会の医学』 開催

開 催

千葉大学は千葉市教育委員会の後援を得て、毎年一般市民を対象とする公開講座を開催しているが、昭和61年度は医学部が中心となり「高令化社会の医学」をテーマにとりあげた。九月十月の毎土曜日の午後、八回にわたって医学部5階大講義室で行われた。講座では、各回一名の講師が老人医療の特殊性とリハビリ、ターミナルケア、老人保健法から見た医療と経済といった問題を講義した。

9月6日、奥井勝二教授(昭28卒 第一外科学)「老人医療の特殊性(1) 消化器がん」

9月12日、稲垣義明教授(昭26卒 第三内科学)「老人医療の特殊性(2) 循環器疾患」

が腫瘍化に重要な役割を持つことを解明したこと。また、九大グループがリンパ球の分化に重要な働きをする核内蛋白を詳細に解析したこと、等であった。

学問は生きている。既存の成果を踏まえ、異なった分野での新しい技術と思想を咀嚼し、より新しい方向を見出し、より努力を、今までも同様これからも続けていかねばならぬことを、今回の学会を通じて再確認した。

〔環境疫学研究施設、免疫研究部門、助教授〕

9月20日、木村 康教授(昭24卒 法医学)「老人保健法を中心として高令化社会を視る」

9月27日、佐藤三三教授(昭21卒 精神医学)「老人医療の特殊性(3) 痴呆老人」

10月4日、山浦 品助教授(昭40卒 脳神経外科)「老人医療の特殊性(4) 脳出血と脳梗塞」

10月11日、渡辺 武博士(昭27卒 千葉県医師会副会長)「終末期のケア(寝たきり老人の問題)」

10月18日、山中 力博士(昭31卒 千葉県リハビリセンター長)「高令者のリハビリテーション」

最終日の10月25日には、本講座を担当した全講師陣によるパネルディスカッションが行われ、21世紀を目前にした日本の医療問題について討議された。身近で深刻なテーマのためか、毎回多数の市民がメモを取りながら熱心に聴講していた。

千葉大学は千葉市教育委員会の後援を得て、毎年一般市民を対象とする公開講座を開催しているが、昭和61年度は医学部が中心となり「高令化社会の医学」をテーマにとりあげた。九月十月の毎土曜日の午後、八回にわたって医学部5階大講義室で行われた。講座では、各回一名の講師が老人医療の特殊性とリハビリ、ターミナルケア、老人保健法から見た医療と経済といった問題を講義した。

9月6日、奥井勝二教授(昭28卒 第一外科学)「老人医療の特殊性(1) 消化器がん」

9月12日、稲垣義明教授(昭26卒 第三内科学)「老人医療の特殊性(2) 循環器疾患」

岡山大学 川村光毅教授(昭36卒) 両備糧園記念財団より表彰

岡山大学医学部解剖学第三講座 川村光毅教授は、「小脳性運動失調症のモデル動物脳の修復に関する生物学的研究」により、昨年九月財団法人、両備糧園記念財団より助成費を受けられた。同財団は郷土岡山の学術、文化、芸術、スポーツおよび教育の発展に大きく貢献した研究者や文化人を表彰し助成金を贈っている。

入学試験制度の改革

国立大学の受験複数化等をめぐって

千葉大学医学部教務委員長
薬理学教授
村山 智 (昭26卒)

本年春の国立大学の入学試験については、既に御存知の通りであるが、わが医学部ではどのような経過であったかについて許さる範囲内で述べた。昭和60年12月、国立大学協会は各学長宛に「受験機会複数化に関するアンケート」を発した。医学部教授会の審議の結果は「大綱において大協の原案に沿う」となった。すなわち、①大学のグループ分けの実施、②二大学以内の併願、③事後選抜制等に同意し、実施日程案に賛成した。このように各大学とも、今より2年以上前に入学

距離的に最も近い東大と東京医科歯科大学と同じグループで二次試験をするかどうかということである。このことはこの三大学の間の格差が云々されることと共に、志願者数にかかわる問題でもある。もし東大と医科歯科大学が同一試験日で本学が別であると仮定すると、恐らくかつて医科歯科大学がいわゆる二期校として多大の苦労をした以上の試験実施上の混乱を覚悟しなければならぬ。今回この三大学は同一グループで試験が実施された。しかるに、二大学

たため大きな混乱はなかったものの、今後は同一グループ大学内の併願を禁止するのは当然である。「足切り」による整理と記したことを簡単に説明すれば、上記の三大学の受験生の実力は伯仲しているため、東大(理3)で「足切り」(3倍)されて本学で「足切り」(4倍)されて本学でも実際に本学に合格することはきわめて困難であった。受験機会複数化とは合格機会の複数化に直結しないことを受験生はよく考えて併願大学を決めるべきである。

ここで本学にかかわる実際の数値を示すと、志願者数は一〇九四名、公表の通り共通一次試験成績についての「足切り」を行い、二次試験受験者は四〇三名となったが、同一グループ内の併願を認めたため実際の受験者数は三七一名であった。本年度より定員一〇〇名としたため二次試験倍率は三・七倍という結果であった。他の大学のこくといわゆる「水増し」はせず、合格者は定員通り発表したが、併願した大学にいずれも合格した者の「事後選抜」の結果、十五名の補欠合格者を追加した。結果的には本学の場合きわめて円滑に難局を乗り切ったが、正直のところ責任を持つ者は疲れ切り、教務関係の事務官は想像を越える仕事量に苦しんだ。最後に、併願して合格した他の大学(旧帝大系を含む)を辞退して本学に入学した者がきわめて多数であったことを付記したい。入学者の七〇％は現役と一浪、二〇％は女子、他大学を既に卒業した者を含め高校卒業

後七、八年以上の者が一〇％を越えた。

たため大きな混乱はなかったものの、今後は同一グループ大学内の併願を禁止するのは当然である。「足切り」による整理と記したことを簡単に説明すれば、上記の三大学の受験生の実力は伯仲しているため、東大(理3)で「足切り」(3倍)されて本学で「足切り」(4倍)されて本学でも実際に本学に合格することはきわめて困難であった。受験機会複数化とは合格機会の複数化に直結しないことを受験生はよく考えて併願大学を決めるべきである。

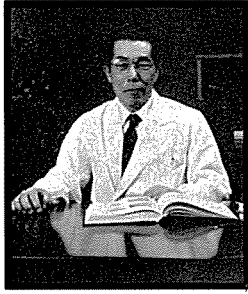
ここで本学にかかわる実際の数値を示すと、志願者数は一〇九四名、公表の通り共通一次試験成績についての「足切り」を行い、二次試験受験者は四〇三名となったが、同一グループ内の併願を認めたため実際の受験者数は三七一名であった。本年度より定員一〇〇名としたため二次試験倍率は三・七倍という結果であった。他の大学のこくといわゆる「水増し」はせず、合格者は定員通り発表したが、併願した大学にいずれも合格した者の「事後選抜」の結果、十五名の補欠合格者を追加した。結果的には本学の場合きわめて円滑に難局を乗り切ったが、正直のところ責任を持つ者は疲れ切り、教務関係の事務官は想像を越える仕事量に苦しんだ。最後に、併願して合格した他の大学(旧帝大系を含む)を辞退して本学に入学した者がきわめて多数であったことを付記したい。入学者の七〇％は現役と一浪、二〇％は女子、他大学を既に卒業した者を含め高校卒業

後七、八年以上の者が一〇％を越えた。

故武田清一先生を悼む

社会保険船橋中央病院院長
大久保 春 男 (昭28卒)

武田清一先生には、昭和六十一年九月七日午前三時、ついに帰らぬ人となりました。約一年間、国立がんセンターで療養に努められたのでありますが、九月になり病状急変し、永遠の眠りにつかれたのであります。享年六十二歳であります。



先生は、第一外科において、肺、乳腺、甲状腺の外科を専攻され、

がれました。仕事には厳しい先生でしたが、患者さんには誠に優しく、常に、「患者さんの為」を

助教授となられた後、昭和五十六年十二月、船橋中央病院長に就任されました。五年足らずの短い期間ではありましたが、この間、文字通り、寝食を忘れて、地域医療に、病院運営に、全力を尽くされ、特に乳癌、甲状腺癌の治療に主力を注ぎました。

先生、どうか安らかに眠ってください。

先生、どうか安らかに眠ってください。

がれました。仕事には厳しい先生でしたが、患者さんには誠に優しく、常に、「患者さんの為」を

先生、どうか安らかに眠ってください。

先生、どうか安らかに眠ってください。

人事異動

昭和61年11月2日、
昭和62年2月28日

助教昇任

関谷宗英 (昭40卒) 産科婦人科 学講座

講師昇任

大塚 裕 (昭50卒) 眼科学講座

徳久剛史 (昭48卒) 附属環境疫学研究施設

渡部恒夫 (昭46卒) 整形外科学 講座

中山 章 (昭45卒) 第三内科学 講座

坪倉 健氏 (昭19卒、昭61年6月逝去)

六郷 政寛氏 (昭20卒、昭61年7月逝去)

岡田 正明氏 (昭33卒、昭61年7月5日逝去)

村中 正中氏 (昭17卒、昭61年8月5日逝去)

井田 進氏 (大4卒、昭61年9月23日逝去)

山田 泰一氏 (大6卒、昭61年9月28日逝去)

小林 英佐氏 (昭3卒、昭61年9月29日逝去)

石橋 修氏 (昭16・12卒、昭61年9月30日逝去)

鈴木 丹下 仁氏 (昭20卒、昭61年19月逝去)

実氏 (昭20卒、昭61年19月逝去)

計 報

編集後記

☆本号の原稿を印刷に回す直前に大変悲しいニュースが編集部に届きました。本学附属病院に入院、療養されておられた前千葉大学教授、伊藤健次郎先生(外科学、昭15卒)が、四月二十三日逝去されました。心から先生の御冥福をお祈りいたします。

☆本学附属環境疫学研究施設疫学研究部の徳久剛史講師(昭48卒)は、神戸大学医学部附属医学研究国際交流センター、基礎免疫研究部の教授に決定され、三月十六日付で赴任されます。次号で抱負を伺いたいと思います。

☆同窓会の先生方の暖かい御支援により、本会報も90号を越えました。百号を目指して前進あるのみです。(徳永 毅)

松本 秀夫氏 (昭13卒、昭61年11月30日逝去)

上山 巖氏 (昭4卒、昭61年12月11日逝去)

小谷 庸氏 (昭24卒、昭62年1月13日逝去)

青山 恭二氏 (昭28卒、昭62年1月19日逝去)

松本修一郎氏 (昭11卒、昭62年1月23日逝去)

大志摩 毅氏 (昭19卒、昭62年2月16日逝去)

鈴木 宜民氏 (昭62卒、昭11年3月2日逝去)

小野 慶三氏 (昭8卒、昭62年3月6日逝去)

貫 文三郎氏 (昭3卒、昭62年3月9日逝去)